

ふくしま共創のまちづくり計画

立子山地区（素案）

作成：立子山地区ふくしま共創のまちづくり
計画策定懇談会
事務局：立子山支所内
電話：(024) 597-2111

地域ビジョン

「人情味のある温かい元気な地域づくりと凍み豆腐など地域の特産物を生かしたまち」

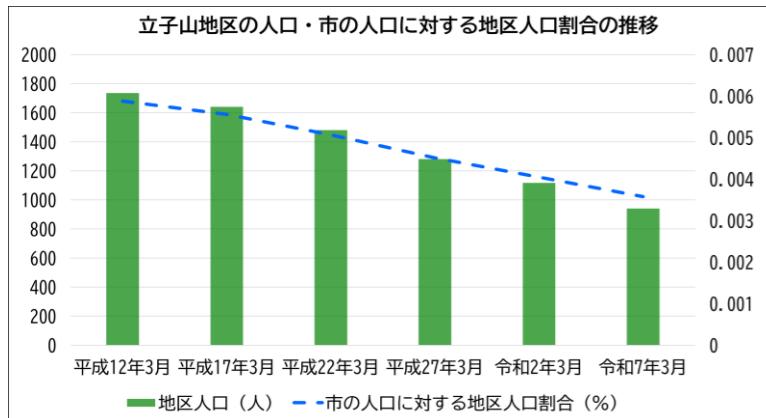
- (1) 自然との共生を図り、地区全域が里山という特徴を生かした四季毎に彩りのあるまち
- (2) 子どもは夢を高齢者は生きがいを持って、ともにいきいきと誇りをもって住み続けられるまち
- (3) 立子山に「来てみたい、住んでみたい」と言われるまち
- (4) 遊休農地の再生による安全安心な農産物の生産と、凍み豆腐など地域の特産物を生かした実り豊かなまち
- (5) 地区の史跡や文化を守り伝えていくまち



【特産物「凍み豆腐」づくり】

地域の個性

- 【位置】本市の東南に位置し、地区のほぼ中央を国道114号が東西に走り、南側を県道大沢・広表線が通っています。地区全体が阿武隈高地につながる起伏の大きい山間地帯で、山あいに宅地や田、畑などの土地利用が行われています。
- 【人口】昭和30年7月に福島市と合併し、当時は約2,800人の人口でしたが、少子高齢化の進行により、令和7年9月末には931人まで減少し高齢化率も57.0%と高くなっています。
- 【自然環境】地区の西側を阿武隈川が流れ、地区全体が里山といつてもよいほど風光明媚で自然に恵まれた豊かな地区です。
- 【公共施設】自然豊かな環境の中で、研修や野外活動ができる社会教育館「立子山自然の家」があります。
- 【特産物】本市においては、今より300余年前（江戸時代）が起源といわれる「凍み豆腐」。当地区では、大正時代より冬期間の天日と寒風を利用して製造され、福島の逸品「凍み豆腐」として販売しています。
- 【名所旧跡】阿武隈川沿いは、阿武隈峡として県指定の名勝及び天然記念物に指定されており、その周辺は、鮎滝渡船場跡（国指定史跡）や鮎滝観音、蓬萊岩が点在し、自然豊かな憩いの場となっています。また、地区内には、由緒ある歴史資源が数多く残されています。（岩之倉文殊尊、村上薬師堂、菅野總次郎翁顕彰碑、一円寺、疣石峠と義民顕彰碑、薬師寺、天正寺、駒込八幡神社、篠葉沢稻荷神社、不忘園、館ノ山の百庚申）
- 【歴史】明治43年、立子山村は、村民一丸となって協力し公益をあげた実績が評価され、全国の「模範村」の一つとし旧内務大臣より表彰を受けました。また、世界的歴史学者 朝河貫一博士が幼少期を過ごしたゆかりの深い地域です。



立子山地区の基礎データ (R7.9末現在)		
項目	立子山地区	市全体
面積	14.59km ²	767.72km ²
人口 (人)	931 (市全体の0.4%)	262,122
15歳未満	35 3.8%	29,778 11.4%
15~64歳	365 39.2%	148,788 56.8%
65歳以上	531 57.0%	83,556 31.9%
世帯数	437世帯	125,001世帯

地域の取り組みの実績

【新・たつごやまレガシー】 1 2 3 を後世へ】
2021～2025年度の5年間、様々な社会問題・地域課題があった中、起きた困難を受け止め対応する発想力と回復力により、地区一丸で乗り越え、立子山の地域力が大きく向上しました。
これらの「新たたつごやまレガシー（遺産）」を地域の大重要な財産として継承し、後世、未来へつなげていきます。

レガシー1 コロナを越え（超え）未来へ～予防接種等対応と暫時休止の地区行事の復活で、地域の結びつきが深化～

コロナ禍における全市に先駆けた取り組みとして、地区内医療機関と社会福祉協議会立子山協議会、行政（支所）が連携し、高齢者や地区住民の予防接種手配や高齢者送迎等に対応し、まさに一体となりコロナを乗り越えました。このことによる地域結びつきの深化は、レガシー2・3にも活かされています。

- (1) このレガシーを活かし「たつごやま生き活き健康フェスタ」の開催をはじめ、「いきいきもりん体操」や立子山独自の「健康チャレンジシート」に積極的に取り組み、市内でも模範となる健康づくり推進並びに人情味ある温かい地域づくりにつなげています。
- (2) 「ふれあいサロン」や「配食サービス」、「高齢者送迎サービス」など高齢者の生きがいづくりをサポートしています。
- (3) コロナ禍のため3年間休止せざるを得なかった、地区を挙げての盆踊り、敬老会、運動会が地区住民の想いと努力により復活を遂げています。
- (4) 花の里づくり事業（町会等団体単位での美化・環境整備）、安全安心なまちづくり事業（防災訓練による地域防災力向上、交通安全啓発活動、防犯指導活動）については、休止することなく継続して実施しています。

レガシー2 朝河貫一博士生誕150周年並びに立子山小学校創立150周年を契機とした新たな創造・展開

- (1) 立子山で幼少期を過ごし、世界的歴史学者となった朝河貫一博士の顕彰事業に継続して取り組んでいます。
- (2) それぞれの150周年を記念し、小学校と盆踊り、敬老会、運動会などの行事の連動により活力と魅力を増し、子どもたちの健やかな成長と地区住民の元気、交流人口の拡大に寄与しています。
- (3) 新規事業として若者が集う地域アカデミーや平和祈念コンサートを開催し、県内の大学生と地元小中学生や住民との交流を進めています。150年を契機とした地区バス停名称変更や惑星「アサカワ」誕生、朝河太鼓創作、イメージキャラクター「アサカワくん」誕生、とともに平和記念植樹等を実施し、地区的魅力として発信しながら、地区のにぎわいに寄与しています。
- (4) 立子山小学校創立150周年記念事業の展開により、児童による民報ジュニアチャレンジへの提案がグランプリ受賞にもつながり、地区に大きな元気と刺激を与えています。

レガシー3 立子山中学校の閉校、地区内学童廃止に伴う地域課題解決とその後の発展

- (1) 旧立子山中校舎への職業訓練校の移転により若い訓練生や指導者との地域交流、並びに体育館・グラウンド利用団体等と地域との新たな結びつきが生まれています。
- (2) 地区学童廃止に伴い、保護者と民生児童委員等で児童の放課後を見守る、新たな立子山スタイル「たつこ放課後クラブ」が創設され、待機児童の解消と、市が新たに推進する「こどもベース」にもロールモデルとして貢献しています。これらにより市教委主催の放課後子ども教室へと発展し、見守りの輪が地区全体に広がり、児童の健全育成と世代間交流やふれ合いの場となっています。



【地域アカデミー】



【朝河太鼓】



【たつごやま生き活き健康フェスタ】

地域の強みとなる資源

(1) 特産品「凍み豆腐」

冬期間の天日と寒風を利用して作られる凍み豆腐は、本市を代表する特産品です。

(2) 豊かな自然と名所・史跡

阿武隈狭の蓬萊岩や松尾山一円寺、太平山天正寺、篠葉沢稻荷神社、刀匠・将平鍛刀場、疣石山義民顕彰碑などの歴史・文化的資産が存在します。

(3) 顕彰

模範村表彰や朝河貴一博士の偉業は、立子山の誇りです。

地域課題

(1) 近年の猛暑、ゲリラ豪雨等の異常気象、頻発するクマ・イノシシ被害への対応を含めた、安全で安心して住み続けられる生活環境を重視した持続可能な集約型のまちづくり

(2) 地域生活を支える道路網や河川の整備と減災型のまちづくり、リサイクル社会に対応した資源物の分別とごみ出しマナーの徹底

(3) 少子高齢化の進行に伴う急激な人口減少を直視したUターン・Iターン事業などを含めた交流人口、関係人口の拡大

(4) 桑畠など遊休農地や耕作放棄地の解消と活用及び担い手の確保

重点的な取り組み

重点的な取り組み共通テーマ

(1) 立子山ならではの「地域住民×子どもたち・若者・保護者×高齢者」の心通う交流で、心身の健康・生きがい・地域の元気と活力を創る。

(2) 地域の誇りである「朝河親子顕彰・地域アカデミー・朝河太鼓」×「豊年盆踊り大会・敬老会・大運動会」×「健康づくりへの先進的な取り組み」×「高齢者送迎支援」×「凍み豆腐・地域産業」×「自然・緑・農地の保全活動」×「立子山小学校」×「たつこ放課後クラブ」×「職業訓練校・旧立子山中体育施設」×「立子山自然の家」を有機的に連動させた地域づくりを推進する。

I 魅力ある地域づくり

【方針1】人情味のある温かい元気な地域づくりを推進します。

(継続) 立子山花の里づくりを引き続き実施し、花木などを植栽しながら地区の美化と環境整備を進めます。

(継続) 地域おこし協力隊との連携や市移住コーディネーターの支援を受け、地区内の空き家、遊休農地の実態調査と活用方法を検討し、Uターン・Iターン事業の積極的な推進を図ります。

(継続) 希薄になりつつある隣近所との関係を踏まえ、町内会加入を促進し地域コミュニティ力を高めます。

(継続) 地域の伝統文化や伝統行事などの継承・活性化を推進します。

II 地域資源の利活用

【方針1】地域資源を見直し、活用することにより、地区の活性化を推進します。

(継続) 遊休農地を解消し、実り豊かな農地の再生事業を進めるため地域おこし協力隊との連携により、地域産業の活性化を目指します。

(継続) ホームページ等を活用して、凍み豆腐の紹介など立子山地区の魅力を世界に発信します。

(継続) 阿武隈峡遊歩道などの自然遊歩道や、館ノ山などの歴史資源の整備を進め、人を呼び込む観光ルートとしての活用を図るとともに、名所・旧跡の保存、情報発信に努めます。

(継続) 朝河貴一博士の偉業並びに地区の先祖が朝河正澄氏に寄せた「報恩之辞」の精神の伝承、模範村表彰を地域の誇りとして育み次世代につないでいきます。

(新規) 江戸（享保）時代、飢餓に苦しむ村民のために立ち上がった義民の行動と志を継承し、顕彰活動に取り組みます。

III 持続可能な集約型のまちづくり

【方針1】安心して住み続けられる生活環境を重視したまちづくりを推進します。

(継続) 災害に強いまちづくりを推進するため自主防災組織の活性化を図ります。

(継続) 高齢者が生き生き暮らしていくようお出かけサポートの実践に取り組みます。

(継続) 地域福祉の向上のため関係機関・団体と連携し、地域に即した健康づくりなどを積極的に推進します。

(新規) 地域で子どもたちを見守り育てる新たな運営スタイルの「たつこ放課後クラブ」を実践し、伝統文化継承の機会（年中行事の実施）や子どもと大人の交流を通じて地域教育力の向上に取り組み、「子育てするなら立子山」の発信につなげます。

(新規) 中山間地域等直接支払交付金事業等を活用し、集落を超えた繋がりで、農地の保全に努めます。

IV 地域産業の活性化

【方針1】魅力ある地域産業の創出を推進します。

(継続) 農業や凍み豆腐に代表される地域特産品等の地場産業の活性化を図るため、地域おこし協力隊と連携し、担い手の育成・支援等の方策を検討します。

(継続) 遊休農地等の活用を推進し、地域に定着した新たな産業の創出に向け検討します。



【立子山豊年盆踊り大会】



【阿武隈峠の蓬萊岩】